

「“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	畜産女性経営主等
日時	平成 28 年 3 月 29 日（火）13 時から 14 時 45 分まで
場所	鹿屋市役所 602 会議室
参加者	畜産女性経営主等 5 名
	市長、広報広聴課長、畜産課
1	畜産経営に係る現状等について
2	その他
	<p>市長：畜産経営については、後継者が育たないなどの問題があるが、将来の明るい展望のためには、何よりも女性が元気でなくてはならないと考えており、本日は色々な意見を聞かせてもらうことを楽しみにして来た。</p> <p>畜産振興のために行政には色々な補助事業があり、皆さんに使っていただき規模拡大等図っていただいているが、身の丈に合わない使い方をして、負債を持ってしまう方もいる。新規参入では下手をすると億単位のお金が必要となることから、大きな覚悟とともに、自分に合った適正な規模なのかも見極めないといけない。</p> <p>補助事業は景気対策の側面も持っており、景気の動向によって年度途中で補正予算が生まれ、締め切り日が短い中で申請してもらうことがある。そのような話が急に出た時でも対応できるように、常に頭の中で計画を練っておいた方が良いと思う。</p> <p>また、最近の補助事業は、ポイント制になっており、空き牛舎を使ったり、女性の登用、集団的な取組を行うなど、将来に向かって目的を持ったしっかりとした計画の策定が必要である。牛の目利きも当然であるが、経営者としてのキャリア形成が大切であり、企業経営を身につけることが求められている。</p> <p>お互いに研修しあって、技を模倣しあい切磋琢磨して夢をかなえてほしいし、今日は、そういった皆さんの夢を教えてほしい。農業の魅力を発信し、I ターン等で若い人たちにこの地域に来ていただいて農業に取り組んでほしい。</p> <p>市長：子牛価格の高騰について、枝肉が高止まりしているが、これをどう見ているか。</p> <p>提案：販売価格が高いことは、生産農家を始める人からすればありがたいことだが、餌の購入額には変動があり不安だと思う。餌が確保できても、糞の処理が必要で、堆肥にするにしても使える畑の面積が少ないなど問題がある。堆肥センターにも聞いてみたが、和牛の糞は受け入れられないとのことであった。もらってくれる農家さんがいれば無償でさしあげるのだが。</p> <p>また、自分の子どもを後継者にしたいと考えているが、将来、価格が下落することが心配である。</p> <p>市長：畜産課を介して畜産環境センターへお願いしてもらったが、受入られるということであった。</p>

提案：堆肥化し使用しているが、量が多い。また、敷料としてシラスを使用しているため、畑にはいやがられる。処理してくれる所があればよいのだが。

市長：市内に耕作放棄地が 800ha 程あり、本市の農地の 8%を占めているので、こういう土地を活用できればよいが。

提案：荒れた畑を借りて造成する事業はできないのか。

市長：鹿屋市の政策として有かもしれないが、その土地がいかに山手の何畝ということであれば、事業としてはやりにくいと思う。

提案：荒地については、たとえ造成できたとしても一年間は草も生えない。堆肥を出すところがないと、ぬかるみも出て牛がかわいそうである。

回答：例えば、豚糞の場合は、ほとんど水分なので処理にお金がかかる。糞の問題については、循環型農業にシフトできればよいが、堆肥をほしい人もいるはずなので、旨くマッチングできれば良いと思う。

提案：私の所は堆肥場があり、各農家から出たものを受け入れている。

回答：堆肥を輸出産業にしようという話がある。中国や中近東に出せないかという話で、堆肥の規格を合わせて、日本から帰る船に載せればありえる話だと思う。

それから、鹿児島黒牛のブランド化については、黒牛という名前がマンネリしていて、どこの地域も黒牛、黒牛といっている。

分娩の目利きや、繁殖期間の短縮も大切で、15 箇月位に短縮できれば、大規模農家では経営が違ってくると思う。キャトルセンターのように、生ませる人、育てる人、仕上げる人など、もっと分業してよいのではないかとも思う。

提案：個人的には、生産から育てるところまで携わりたいという気持ちもある。ただ、経営だけ考えれば、キャトルもありかなと思う。

回答：それぞれの身の丈に合った、自分の目標に合ったやり方を考える必要がある。鹿屋は、4～5頭の牛を飼っている農家が多く、ある意味趣味的なものになっているとも言えるので、大きく経営する人たちを育てないといけない。

どうしたらそういう人を増やせるか。または、新しく畜産を始める人を連れてこられるか。皆さんはどうしたらよいと思うか。

提案：やはり、補助と牛舎などの使える施設の紹介だと思う。

回答：離農された方の空き牛舎はあるが、住宅の横にあり、他の人が借用するには利用し辛いと思う。空き牛舎のバンクもあると思うが。

提案：10頭でも飼える場があれば、他の業種で働きながらでも通えるし、空き牛舎の共同利用もできると思う。

回答：国の補助等を使って牛舎等を作ると、相当立派なものを作ることになり、費用もかかるので、知り合いのつてなどを頼って身内で作れば安上がりで整備できると思う。

回答(畜産課)：スマート牛舎というものがあり、クラスター事業のモデルにしたいと考えている。

提案：今、生産農家は高値なので頑張れるが、これが下がってくると休む人がいるかもしれない。

回答：空き牛舎バンクのこと等、皆さんが活動しやすいように色々な情報を提供していきたい。新規で始める際に必要なことはあるか。

提案：新規の場合でも50頭規模の補助はあるが、経済連の雇われのような形になる。個人が新規で始めるのは難しい状況である。

回答：確かに、トラクター、畑、牛舎となれば何千万円にもなる。

今、地域おこし協力隊という人たちがいるが、県外から畜産をやりたい人を鹿屋に呼んでくれば、年200万円の給料が国から出る。3年間くらい、鹿屋の農家さんと一緒に農業をすれば、気持ちも通じ合ってその後もやっていけるようになるのではないか。

提案：廃校を牛舎として使えないだろうか。共同牛舎もできると思う。それぞれが独立できるまでの期間で活用できればよいと思う。

回答：廃校を使った牛舎というのは、全国でも恐らく例が無いし、校庭も広いので使えると思う。牛舎には耐震も関係あるのか。

回答(畜産課)：耐震化については特に話を聞いたことは無い。

提案：市がスマート牛舎を建てて、共同で使うのも良いかもしれない。他の人の牛も見られるので、お互いに勉強になる。

回答：皆さんの目線で今のような話があれば、個人への補助は難しいが、チーム等を作って相談していただくことで、市も応援できると思う。市も補助をしつつ、個人や法人の農家さんへ若い人を受け入れてもらって、将来はのれんわけしてもらおうのも良いと思う。

吾平のピーマン部会は、JAのピーマン部会の農家に3人預け1年間研修させて

おり、市が各世帯に15万円（単身：15万円、夫婦：20万円）ずつ補助している。2年目には、親方のハウスの横に降灰対策事業で自分のハウスを作る。そうすれば、その内に団地ができて良い形になる。

**提案：**研修生は、将来的に地元へ帰る人もいるが、最近では、非農家の子も入ってくるようになった。

**提案：**畜産農家からは、畜産農家の子弟より、まっさらな何も畜産の知識の無い人の方が良いという話もある。

**回答：**牛を飼っていると、生き物と接して癒される部分もあるのではないかと。

**提案：**牛の目が良い。嘘もつかないし、愚痴を聞いてくれる。

**回答：**飼料用米などは使っているのか。

**提案：**食い込みも良く、飼料用米は良いと思う。

**回答：**鶏は事故率を下げるのが大事であるという話を聞いたことがある。牛はそんなに事故はないと思うがどうか。

**提案：**事故ではないが、今年は早産が多い。予防接種については、4月～5月は遅いので、もう少し早く接種できればと思う。また、3種から4種ワクチンになると聞いているがどうなのか。

**回答(畜産課)：**今年から4種混合でお願いしており、接種時期は3月～4月で実施している。

**提案：**農業振興地域については、牛舎の建設も認められないのか。

**回答：**案件にもよるが、豚舎や牛舎等の農業施設なら、基本的には大丈夫である。また、来年全協（全国肉用牛枝肉共励会）があるが、最近の若い畜産家はあまり興味が無いようだ。肥育をしている農家が新規で生産をするという所には、1頭8万円で5頭までの補助がある。

因みに、例えば80万円の牛で、コストはどれくらいかかっているのか。

**提案：**概ね40万円位だと思う。

**回答：**畜産農家の方は、儲かるとすぐに機械を買うようで、補助金も機械の補助だらけだが、農家さんのためではなく、機械メーカーのための補助金のような気がする。メーカーも補助金が絡んでいるというのを分かっている、あまりまげよう

としない。

また、農業機械の長寿命化を図るためにオーバーホールをした方がよい。うまくすれば2倍の期間使うことができる。高価な機械については、皆さんで共同利用はしないのか。

**提案：**皆で使うことはできるが、例えばトウモロコシの台風対策ともなれば、自分の所に手を入れないといけないので、それぞれが自分で持っている。

**回答：**規模拡大をすると、委託などして分業していくのも良いと思う。

**提案：**畜産をやりたい人は多く、牛を育てることなど女性の方が向いていると思う。

**回答：**今から加工も始まるので、農地は奪い合いになる。

鹿屋市は小規模農家が多いが、大崎町は大規模農家がたくさんあり、中核的な担い手に集積されていく。鹿屋市においても4割程度の土地が集められており、攻めの農業をいう中で、確かに誰でもは農業をできなくなってきたかもしれない。また一方で、農地集積といっても住宅街の土地は借りてもらえない。

**提案：**臭いとかすぐ言われると思う。

**提案：**農業振興地域の除外をするのに半年ほどかかる。

**回答：**標準処理の期間があり、公告縦覧するのに時間が必要なので、御理解いただきたい。

**提案：**鹿屋市は美味しい食べ物などがあるのに、外から来ようという人が入り辛いところがあると思う。もっと入口をアピールしてほしい。農業をしたい、畜産をしたいと言って各自治体の補助率等を見て転居先を決める人たちもいる。

**回答：**確かに、鹿屋で農業したら面白いというアピールは今までしていない。地域の人たちと一緒におもてなしの心でPRできれば良いと思う。

4月から「ふるさとPR課」を新設する。ふるさと納税や観光などを取り扱うが、農業のPRもしていきたい。なお、ふるさと納税の返礼品では、ウナギが人気である。肉に比べて希少価値があるのかもしれない。

**提案：**ひ孫の代まで農業が絶えないことを祈っている。

**回答：**生命を司る産業なので絶えることは無いと思うが、競争は激しくなる。その競争に勝つため、低コストで高品質なものを生産する必要がある。厳しい時代ではあるが明るい未来を信じて頑張ること。中途半端に辞めない方が良いと思う。

また、農家の人で結婚していない人も多いようだ。後継者対策としても色々考

えないといけないが、農業委員会に登録してパーティ等行い、そういう人たちが結婚したら10万円出るといふ補助がある。

提案：出会いという表現だと行き辛い。異業種交流会など名前を変えた方が良い。

提案：毎日の農作業で疲れて、夜出て行く人も少ないのでは。

回答：農家の青年を見てもサラリーマンのように疲れて見えることがある。

提案：そういう人たちを変えていかないと、今は機械化で農業が楽になっているはずが、むしろ機械を買うために余裕が無くなってきているように感じる。

回答：確かに、農業という魔物に使われている時代かもしれない。雇用したり、借金したりで働き続けられないといけない。

グループという意味では、酪農家や茶業の人たちはとてもまとまっているが、耕種はあまりまとまりが無い。皆で取り組めれば良いのだが。新しい試みを連携して行わないと、自分だけ儲けるのも何かと問題があるのかもしれない。

今、鹿屋で女性の若手が中心になった経営者はどれくらいあるか。

提案：鹿屋はそんなにいない。大体が夫婦で経営している。

回答：皆さんの牛を肥育農家が飼う際に、自分の牛以外の牛を選ばれた時、買主に話を聞いたりするのか。

提案：あなたの牛はパンパンしすぎているので、もう少しゆったりした方が良いという意見を聞いたことがある。

提案：最近販売価格が高すぎて、肥育農家の人に迷惑をかけるのではと考えてしまう。

回答：それぞれの生産農家にお客さんが付くことはあるのか。

提案：お客さんとも相性があるので、お互いの信用でそれぞれのお客さんが付いているし、一度信頼を裏切ると、二度と買ってもらえない。

提案：肥育農家が儲からないと、我々（生産農家）も儲からない。

市長総括：今日は、今まで知らなかった色々な話を聴かせていただいた。女性部会等でこんなことをしてみたいという話があれば、ぜひ応援したい。

皆さんの話にもあった、鹿屋のまちを畜産のまちとして対外的にPRすることなど、今後面白い取組をしていきたいと考えている。